

—香川県丸亀市のケース

お栗の水女子大学・家政 金丸 桂子

<目的>丸亀団扇業は350余年の歴史を持つ地場産業であり、過去一貫して就業者の多くが女子であったという特徴をもつ。本研究では統計資料を基に、過去80年にわたる団扇業女子就業者の変遷をたどり、産業史における位置づけを明らかにする。

<方法>長期統計を基本とし、新聞・古文書・組合報告書等で補う。さらに最近の女子労働者の現状を明らかにするために、8月にアンケート調査及び聞き取り調査を実施した。

<結論>過去80年にわたる丸亀団扇業の女子労働の特徴として、以下7点にまとめることができる。

- (1)過去一貫して女子比率が7割前後と、高い比率で推移していること
- (2)女子就業者数の増加は、不況期に顕著にみられ、しかも男子の増加より1,2年遅れていること
- (3)しかし団扇業において女子は、雇用調整としてよりはむしろ、業界の推進力として機能していた
- (4)賃金は、大正後半以降は、丸亀の他の職種に比べて比較的良好であること
- (5)衰退過程にある現在では、団扇業就業者の多くが、中高年女子で構成されていること
- (6)就業者の生活満足度は女子の方が高いこと
- (7)労働条件を比較すると、団扇業女子労働者は雇用労働者よりは悪いが、パートタイム労働者や家内労働者よりは恵まれていることである。